

HKFA Technical Report



第57回 全国高等専門学校体育大会サッカー競技 兼 第55回 全国高等専門学校サッカー選手権大会

今年度の上記大会（以下、全国大会）は、8月20日(土)～24日(水)に香川県（香川県総合運動公園サッカー・ラグビー場等）で開催されました。我々苫小牧高専サッカー一部は9年連続、24回目の出場となるものの、7月の北海道予選前は新型コロナウイルスの影響で大会の2週間前までほぼ活動できておらず、何とか全国大会への切符を勝ち取るという状況でした。

チームとしては苫小牧高専がこれまで成し遂げられなかった『全国大会ベスト4』を目標に掲げていましたが、開催地の香川県へ入ると、山々に囲まれた暑さと、瀬戸内海に面した湿気で徐々に体力を奪われていきました。しかし、香川県に入る前、香川県に入った後の選手の全国大会へ臨む意識の向上から、チームの一体感が徐々に生まれ始め、これまでの全国大会とは違う感触が得られていたと感じました。

1回戦は長岡高専（北信越代表）との対戦でした。今大会は大会運営側の配慮があり、1、2回戦は夕方開催で、試合開始時には気温も徐々に下がり、試合中の少雨もこちらに優位に働いたと感じました。大会初戦ということで、試合の入りは硬く、不運な形で先制を許してしまいましたが、その後同点に追いつき、後半には徐々に自分たちのリズムが出始め、4-1で勝利を収めることができました。

続く2回戦は、一関高専（東北代表）との対戦でした。これまでの苫小牧高専は、1回戦を勝ち上がることは過去何回かできていたものの、2回戦を勝ち上がることができなかったので、この試合に懸ける選手の想いは強いものがありました。その日の試合開始直後は猛暑でしたが、前半立ち上がりからのプレッシングが機能し得点を重ね、最終的には4-0で勝利することができました。チームとしては、初の2回戦突破、準決勝進出ということで少なからず達成感はありましたが、ここで満足している選手・スタッフは誰もおらず、この勢いで決勝の舞台に立つことを目指していました。ただし、これまでの疲労の蓄積からか、キャプテンはじめ主力メンバーが怪我を抱える事態となりました。



迎えた準決勝は久留米高専（九州代表）との対戦でした。久留米高専はここ数年何度も全国大会優勝を成し遂げた鹿児島高専を地区大会で破り、全国大会進出を果たしてきたチームでした。試合当日はこれまでと違う午前の試合であり、時間が経つごとに気温と湿度が上がり、北海道のチームにとっては厳しい条件であったと思います。試合立ち上がりは苦小牧ペースで試合が進み、その流れから先制点を奪うことができ、その後も追加点を奪えるチャンスはあったが決めきれず、後半開始後は徐々に流れが久留米高専に移り、3失点を許してしまいました。その後、終了間際に1点を返すものの時すでに遅し、終了のホイッスルが鳴り、我々苦小牧高専の挑戦は終焉を迎えました。

本大会を迎えるにあたり、ご支援をいただいた北海道サッカー協会様をはじめ、苦小牧地区サッカー協会様にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。また、4種、3種と携わられた指導者の皆さまからバトンを受け取り、このような形でご報告ができることを大変嬉しく思っております。そして、高専は5年生課程であり、近年は新型コロナウイルスの影響で十分な活動ができない中、最後まで懸命にプレーした選手、そしてその選手を支えられた保護者の皆さまに、心より敬意を表します。

道内には、苦小牧以外にも、旭川、釧路、函館にも高専があり、5年間という特殊な環境ではありますが、再来年には函館で全国大会が開催されることもあり、高専のサッカーを皆さんにもっと知っていただき、道内4高専でも切磋琢磨できればと思っております。我々苦小牧高専は新チームとなり、5年生が大幅に抜け、全くの新しいチームとなりますが、また来年も全国大会に出場できるよう活動に励んでいきたいと思っております。

